

さらに2018年に新たに設けられた地域包括の施設基準1の必須要件である在宅からの脱水症、軽度の肺炎、尿路感染、圧迫骨折等のサブアキュート疾患の入院割合は20%、緊急入院受け入れ42人、脳血管疾患後四肢痙縮に対するボトックス注射や訪問リハビリを施行している患者に対する訪問診療における訪問診療算定317回であり、2020年度に改訂される在宅からの入院

	地域包括ケア		紹介元		在宅 (15%以上)*	緊急入院 (6人/3ヶ月以上)*	訪問診療 30回/3ヶ月以上*
	入院患者数	在宅復帰率 (70%以上)*	第一東和会	他病院			
2015年	434名	84.30%	-	-	-	-	-
2016年	431名	84.10%	-	-	7.50%	0	-
2017年	440名	85.30%	79%	11.40%	7.60%	0	-
2018年	471名	85.80%	62%	10.50%	28.00%	45人/8ヶ月	132回/8ヶ月
2019年	517名	81.20%	63.10%	16.20%	19.90%	42人/12ヶ月	317回/12ヶ月

	回復期リハ		紹介元		FIM実績指数 (37以上)*	総入院患者数
	入院患者数	在宅復帰率 (70%以上)*	第一東和会	他病院		
2015年	284名	88.70%	-	-	-	718名
2016年	306名	81%	-	-	41.2	737名
2017年	330名	86%	87.50%	12.20%	38.1	770名
2018年	367名	90.30%	82.20%	17.80%	43.9	838名
2019年	411名	97.10%	60.80%	39.20%	49.2	928名

*：施設基準(2020年)

15%以上、緊急入院6名/3ヶ月以上、訪問診療30回/3ヶ月以上の条件を十分クリア出来ておりました。

一方、回リハの施設基準1であるFIM実績指数は49.2であり、回リハではより短期間での効率よいリハビリが要求されるようになり2020年度改定で基準が37から40に更にハードルが高く設定されますが十分にクリア出来、質の良いリハビリが提供できていると考えます。

また、三島地区および枚方地区の地域病院との連携が徐々に構築されつつあり、急性期第一東和会病院からの入院は地域包括63.1%、回リハ60.8%、他連携病院からの入院は地域包括16.2%、回リハ39.2%であり、順調に病病連携が構築できて参りました。

今後2040年に向け東和会グループとして第一東和会病院と第二東和会病院が緊密な連携を取ることは当然ですが、三島および枚方地区との病病連携および病診連携を、加えて医療と介護の連携を確実に構築することで、亜急性期疾患の治療およびリハビリを行った後に患者さまの住み慣れた地域での在宅、施設への円滑な退院をお手伝いすることが肝要と考えます。

従来にも増してこれからの地域包括ケアシステムの一翼を担える病院を目指す所存ですので、かかりつけの先生方の患者さまで、入院加療やリハビリが必要な亜急性期疾患の患者さまやレスパイトを御希望の患者さまがおられましたら、遠慮無く当院地域連携室にご相談いただければ幸いです。どうぞ本年も皆さまのご支援のほどよろしくお願いいたします。

**第一東和会病院、第二東和会病院
地域連携室**

TEL 072-671-1118 (第一)

FAX 072-671-1090 (第一)

受付時間 (第一)

平日 8:30~19:00

土曜 8:30~17:00

時間外休日

072-671-1008 (代表)

E-mail renkei@towa-med.or.jp



All you need is love ...

発行日 2020年 3月
第5巻 第12号



TOWA ~架け橋~

Monthly NEWS

連携診療所向け月刊情報誌



1. 2040年に向けての回復期機能病院の責務

医療法人 東和会 第二東和会病院 院長 山崎 元

新年早々日本国は未知の新型コロナ肺炎に見舞われ、現在この原稿を書いている小生の心中は穏やかではありません。必ず日本人の英知を集め被害を最小に食い止めるよう終息させねばなりません。



さて2018年4月の医療介護診療報酬同時改定で大別された入院医療評価体系では、第二東和会病院(計93床)は地域包括ケア病棟(以下地域包括、47床)と回復期リハ病棟(以下回リハ、46床)からなり、急性期と長期療養の間に位置する回復期機能専門病院です。本邦の人口動態は団塊の世代が75歳以上となる2025年までは高齢者人口が急増しその後は漸増傾向になりますが、それに伴い医療介護費の増加は当然進みます。

かたや64歳以下の生産年齢人口は現在減少し続け、2025年以降は急減し2040年には超高齢化社会となってしまいます。すなわち将来、急性期患者が減少し回復期、療養期の需要が高まることが予測され、今後の本院の果たす役割は極めて重要と考えています。

当院の総入院患者数は年々増加し、2019年度は下表のごとく928名でした。国が推進する地域包括ケアシステムにおいて、当院の役割は、急性期から在宅もしくは療養への橋渡しとして入院医療を行うポストアキュートの患者さまや、在宅や介護施設等からの相談を受け入院治療を行うサブアキュートの患者さまを積極的に受け入れ支援していくことにあります。2019年度の在宅復帰率は地域包括81.2%、回リハ97.1%と、80%以上の患者さまを地域のかかりつけの先生方にお返しすることができました。

撮影者：医局長 兼
内視鏡外科センター副部長
千野 佳秀

目次

	Page
2040年に向けての 回復期機能病院の責務 ..1	
”	2